

看護学講座 コミュニティ看護学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	長谷川 美香	1999.4.1～
教授	四谷 淳子	2016.4.1～
准教授	米澤 洋美	2008.4.1～
准教授	北出 順子	2008.4.1～
講師	川口 めぐみ	2009.4.1～
助教	夏梅 るい子	2014.4.1～
助教	平井 孝治	2017.4.1～
助教	青木 未来	2019.4.1～
助教	岡本 智子	2020.4.1～

2. 研究概要

研究概要

コミュニティ看護学分野は、地域看護学・環境科学・老年看護学・精神看護学の4領域から構成されている。

地域看護学では、地域で生活する人々および健康課題を持つ人々の心身の健康の維持・向上への支援に貢献できる看護学研究を目指している。前年度からの研究テーマを継続し、次のような研究活動を行っている。

1. バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

本学工学部、愛知医科大学、広島工業大学、AOSED (An Organization for Socio-Economic Development, Bangladesh) との協働により、バングラデシュの安全な水の確保と住民の健康改善に重点置いたフィールドワーク研究と国際協力を推進した。

2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化

親密な関係にある若者間のデートDV予防教育プログラムの開発及び、プログラム評価に用いるデートDVに関する態度を測定する日本語版尺度を開発した。これらの尺度を用い、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証した。また、福井県のDV被害者の相談実態を全国と比較し、福井県のDV相談支援体制を考察した。

3. 職種チームで支える在宅医療・ケア実現のためのIPE（多職種連携実践教育）の推進

地域医療推進講座、地域医療プライマリケア講座、福井医療大学と共同でIPEセミナーを実施し、地域医療人の育成を推進した。

4. 低出生体重児の母親に関する研究

低出生体重児の母親の育児不安軽減のための育児支援構築を目的に、母親の育児不安の特徴の明確化に取り組んでいる。

5. 若年性認知症に関する研究

若年性認知症者の就労継続のための支援策構築を目的に、若年性認知症者の就労継続困難の実態と問題の明確化に取り組んでいる。

6. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発

シルバー人材センターに所属する団塊世代を中心とした退職後高齢者の社会参加と主体的健康づくりに関して、住民参加型アクションリサーチを用いて参加者の主体性や健康意識に対し経年的な変化を追跡している。

7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明

地域住民と保健師との協働関係に関して、現代のみならず戦前期に遡り記述化に取り組んでいる。具体的には、健康づくりを題材にした戦前・戦中期における保健師機能の明確化、および福井県美浜町と共に健康づくり活動の企画・推進・評価を行っている。

環境科学では、福井市湊地区社会福祉協議会の高木靖弘氏と共同で、平成16年福井豪雨の被災地区と非被災地区における社会福祉協議会会員165名に対して、在宅避難時の要望（環境面、物資面、被災者負担の偏在改善、弱者意見の反映改善、支援者の配置改善、支援情報、子供・要介護者の一時預かり、医療・福祉の相談支援窓口、女性専用相談窓口）について無記名自記式アンケートを実施し、被災の有無で要望に差異が認められるか検討した。

老年看護学では、高齢者が健やかに生活・療養できる環境の整備のために、工学系分野と連携するなど新しい技術を取り入れながら研究を進めている。

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキンテアを予防するシーツの開発

スキンテア（外傷性創傷）は、高齢者の脆弱化した皮膚に些細な摩擦やずれを起こすことによって発生するといわれている。そこで、シーツやリネンの素材も発生リスクになると考え、これまでの褥瘡研究の成果をもとに、褥瘡だけでなくスキンテアを予防するシーツやリネンの開発を地元福井の企業と取り組んでいる。

2. ウレタンフォームマットレスのへたりと褥瘡発生との関係

褥瘡予防用マットレスであるウレタンフォームの劣化が体圧に影響すると言われており、日本褥瘡学会のガイドラインにおいてもマットレスの劣化の確認が推奨されている。これまでの調査において、臀部のへたりがもっとも大きく、ベッドの頭側上時に体圧が最も高いこと、へたりに応じて体圧値が上昇する傾向であったことを報告してきた。しかし、マットレスのへたりと褥瘡発生との関係について調査したものではなく、へたりがどれくらいになれば、褥瘡発生に影響するのかが不明である。そのため、マットレスを交換するタイミングに苦慮しているのが現状である。そこで、本研究ではウレタンフォームマットレスのへたり状況と褥瘡発生との関係を検証する。

3. 超音波画像（エコー）を用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築

褥瘡の肉芽組織の評価は、創面を占める良性肉芽の割合で点数化されている。肉芽が良性か不良かの判断は主観的なもので、評価者により評価が異なることがある。そこで本研究では、褥瘡の肉芽組織の病理組織所見、肉眼的所見と触診の所見、超音波診断検査の所見を統合し、エコーによる肉芽組織の客観的評価方法を確立し、自動判別システムを構築することを目指す。

4. ドライスキンおよびスキンテアを予防・改善するためのアセスメント・ケア方法の開発

高齢者の大きな健康問題に、ドライスキンとスキンテアがある。ドライスキンによって生じるかゆみや発赤、スキンテアによる創傷や感染の危険の持続・悪化は高齢者のQOLを著しく脅かす。このドライスキン、スキンテアの改善のために、看護師は保湿剤を用いたスキンケアを行っている。しかし、臨床現場では改善しきれていない高齢者のドライスキンがみられるのが現状である。加齢により脆弱になった高齢者の皮膚に最善のケアを施すために、基礎研究ならびに臨床研究に取り組んでいる。

精神看護学では、心の病をもつ方やその家族の健康増進、家族のもつ力の向上に関する研究に取り組んでいる。主要な研究テーマとして、次のような研究活動を行っている。

1. 精神疾患をもつ方の再発予防および精神疾患をもつ方とその家族の困難からの回復力向上のために、統合失調症をもつ方の家族レジリエンスを高めることを目的とした看護支援プログラム開発、および摂食障害の家族に対する支援プログラムの推進をおこなっている。

2. 高齢地域住民を対象に認知機能と生活習慣についての研究、高齢地域住民の家族の困難からの回復力についての研究を進めている。

3. 児童・青年期の子どものみずかす発達障害・食行動異常・睡眠の問題に関して、実態調査、予防に向けた背景因子の調査、血中動態の解明をおこなっている。

キーワード

看護、国際協力、低出生体重児、保健師活動の歴史、シルバー人材センター、豪雨災害、体圧分散、保湿ケア、統合失調症

業績年の進捗状況

【地域看護学】

1. バングラデシュ国 パイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

改良版三角型太陽熱淡水化装置（TrSS）の形状が造水性能に及ぼす影響結果を踏まえ、現地住民のニーズに基づき、TrSSの再設計とTrSSの現地における造水シミュレーションを実施し、改良版Trssの造水量UPを確認した（土木学会論文集にて公表）。また、TrSS導入前後の現地住民の塩分摂取量と血圧を継続的に測定した結果、TrSS導入後に有意な血圧低下がみられ、健康状態の改善が確認された（51th APAOPH Conferenceにて発表）。

2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化

Justification of Verbal/Coercive Tactics Scale, Attitudes About Aggression in Dating Situationsの日本語版尺度を開発・活用し、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証し、プログラム受講後の心理的DVに関する認識の有意な上昇傾向が確認された。また、福井県ではDV相談受理件数と一時保護件数間に有意な正の相関関係であったが、全国では有意な負の相関関係であり、福井県のDV被害者は一時保護が必要な状況になってから相談機関につながっている可能性が示唆された（World Nursing and Health Care Congressにて発表）。

3. 職種チームで支える在宅医療・ケア実現のためのIPE（多職種連携実践教育）の推進

嶺南地区での地域医療人育成のため、小浜病院での「在宅と施設と病院をつなぐ多職種連携セミナー」（54人参加）、若狭町での「若狭町生き抜きプロジェクト」2回（計228人参加）を実施した。

4. 低出生体重児の母親に関する研究

低出生体重児の母親の育児不安の影響要因は育児に対する自己効力感であったことを明らかにした。

5. 若年性認知症に関する研究

若年性認知症者の就労・経済的・心理的問題、家族への影響があり、当事者の就労継続意欲があっても就労を諦める傾向があることを明らかにした。

6. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発

地方農村部のシルバー人材センターにおいて団塊世代を中心とした介護予防に関するグループを結成し組織全体の健康を考える取り組みに参画する活動の第2サイクル目の経過を追った。

7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明

保健婦規則が制定された前後で保健指導の内容が変化していたことを明らかにした。また、同時期における国保保健婦のアプローチ方法は、農村部の住民・住民組織の特性に合わせたものであったことを当時の文献から示唆した。

【環境科学】

平成16年福井豪雨の被災地区と非被災地区における調査では、145名の有効回答を解析した結果、環境整備面において、非被災地区では男女別トイレよりも給水場を第1位とする要望が多かったが、被災地区では給水場と男女別トイレをともに整備する要望が多く、在宅避難時でも男女別トイレのニーズが給水場に劣らず大きいことが判明した。本研究は北陸公衆衛生学会誌第46巻1号（2019年10月）に資料として掲載された。

【老年看護学】

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキンケアを予防するシーツの開発

企業と連携し、新たな生地を開発を進めた。新たな生地は、一般的に使用されている綿（平織り）に比べて、摩擦係数・すれ力も低いことがわかった。生地の物性試験、寝床内環境試験を経て、製品化を進める。

2. ウレタンフォームマットレスのへたりと褥瘡発生の関係

附属病院褥瘡委員会と連携し、マットレスのへたり調査を実施した。さらにマットレスのへたりと褥瘡発生の関係を検証するため、附属病院スタッフと連携し計画立案をした。

3. 超音波画像（エコー）を用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築

4. ドライスキンおよびスキンケアを予防・改善するためのアセスメント・ケア方法の開発

施設を利用している高齢者を対象とし、スキンケアを他者に依存している高齢者の皮膚状態や介護者によるスキンケアの実施状況を明らかにすることを目的とし調査を実施した。皮膚生理機能測定（角層水分量、経表皮水分蒸散量、キメ）、スキンフレイルスクリーニングツールを用いた調査では、上肢より下肢の方が皮膚が乾燥していることが明らかとなった。施設スタッフはスキンケアを行うことの重要性を感じているものの、十分に実施できていると感じているスタッフは半数程度に留まっていた。

【精神看護学】

1. 統合失調症をもつ方の家族へのインタビュー結果を通して、統合失調症をもつ方の家族レジリエンスを高めるための看護支援プログラムの作成に取り組んだ。また、作成した看護支援プログラム（案）を精神疾患をもつ方の当事者研究支援者に提示し、助言を受けプログラムの修正に取り組んだ。現在は、作成した看護支援プログラムの効果検証を実施するために、統合失調症をもつ方とその家族への介入調査を計画している。研究の一部は、23rd East Asian Forum of Nursing Scholarsにて発表した。

2. 地域高齢住民を対象として実施した認知症早期発見のための集団検診の結果を分析し、結果の一部を日本老年精神医学会にて発表した。

3. 得られたデータの解析から食行動異常のある子どもが睡眠の問題を生じていくことがわかった。ジャーナル投稿に進んでいる。

特色等

” 【地域看護学】

主として保健師教育課程科目を担当している。学部教育では、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学概論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、産業保健論、学校保健論、国際保健論、在宅看護論、公衆衛生看護学実習（県・市町村実習）、在宅看護学実習、地域ケア実習、および基礎専門科目である健康科学論等を担当している。また、卒業研究では、在宅看護、公衆衛生看護に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、地域看護学特論、地域看護学演習、地域看護学特別研究等の専門科目、及び共通科目である看護倫理、看護研究、災害看護専門看護師教育課程科目である災害看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学特論Ⅴの一部を担当し、老年看護専門看護師教育課程科目である老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳの一部と老年看護学特論Ⅴを担当している。

研究においては科学研究費補助金、JICA事業予算を獲得し、バングラデシュ、福井県および県内の市町村と協力し研究を推進している。国際支援機関、地方自治体等と協働した看護支援を行うことにより、より具体的に当該国・自治体の健康づくりの施策、および人材育成に貢献している。また、福井県の課題である在宅医療推進に向け、県内の医療機関と連携し活動を展開している。これらの成果は国内外の学会で発表し、研究成果を教育に還元している。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス感染症流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要が高くなっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無で比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

学部教育では、老年看護学概論、老年看護活動論、ライフサイクル論、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、老年看護学実習を担当している。卒業研究では、老年看護に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、老年看護学特論、老年看護学演習、老年看護学特別研究等の専門科目、および共通科目である看護研究を担当している。また、2019年4月から老年看護専門看護師教育課程を開講し、複雑で多様な健康問題をもつ高齢者とその家族が尊厳のある質の高い生活を送れるよう、多角的なアセスメント能力、QOL向上に向けた卓越した高度な看護実践能力をもつ人材の育成に貢献している。本課程において老年看護学特論Ⅰ-Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ-Ⅲを担当している。

研究においては、高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向け取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われる課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

学部教育では、メンタルヘルス看護実践方法論、精神看護学概論、精神看護活動論、ライフサイクル論、精神看護学実習を担当している。また、卒業研究では、精神疾患をもつ方の再発予防および地域生活定着のための支援、精神疾患をもつ人の家族に関するテーマでの論文作成を指導している。

研究においては、精神疾患をもつ人の再発予防や地域生活継続に向けた支援、精神疾患をもつ人の家族支援をテーマに研究に取り組んでいる。特に、精神疾患をもつ人とその家族の困難からの回復力に着目し、その力を高めるための看護支援プログラムの構築に努めている。”

本学の理念との関係

本学の中期計画である【2】地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献するという点を考慮し、研究、教育、地域貢献を行っている。

【地域看護学】

研究では、「大学生のデートDV予防教育プログラムの開発に関する研究」（基盤研究（C））、「退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発」（基盤研究（C））、「住民と国保保健婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究」（基盤研究（C））、「バングラデシュ国バィガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト」（JICA策の協力事業）、「低出生体重児の母親に関する研究等」を行っている。

これらの教育・研究は、国内外、県内地方自治体等と協働し、地域特性を鑑みたものである。特に学部教育では、実際に地域に出向き、住民と接することで地域の健康課題を見出す演習を設けるなど、地域により密着した教育を行っている。本学の中期目標にある『地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する』をまさに実践中である。

地域貢献としては、福井県、県内の市町村の各種委員会委員および委員長、専門職業人、地域住民を対象とした研修会講師、DV被害を受けた女性の自助グループの活動支援等に携わっている。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要性が高くなっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無と比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向けた老年看護学の研究に取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われる課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

精神疾患をもつ方の再発予防および地域生活定着のための支援について医療・福祉・保健の専門職との連携や看護職の役割に関する研究・教育を行っている。

3. 研究実績

区分		編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
		2014～2019年分	2020年分	2014～2019年分	2020年分
和文原著論文		4	5	—	—
	ファーストオーサー	0	1	0(0)	1.688(1.688)
英文論文	コレスポンデントオーサー	0	0	0(0)	0(0)
	その他	0	7	0(0)	19.01(19.01)
	合計	0	8	0(0)	20.698(20.698)

(A) 著書・論文等**(1) 英文：著書等****a. 著書****b. 著書（分担執筆）****c. 編集・編集・監修****(2) 英文：論文等****a. 原著論文（審査有）****20112001**

Shibata K, Ogai K, Ogura K, Urai T, Aoki M, Arisandi D, Takahashi N, Okamoto S, Sanada H, Sugama J: Skin physiology and its microbiome as factors associated with the recurrence of pressure injuries, Biological Research for Nursing, 23(1), 75-81, 202101, DOI: 10.1177/1099800420941100, #1.789

20112002

Ogai K, Ogura K, Ohgi N, Seohui Park, Aoki M, Urai T, Nagase S, Okamoto S, Sugama J: Stability of skin microbiome at sacral regions of healthy young adults, ambulatory older adults, and bedridden older patients after 2 years, Biological Research for Nursing, 23(1), 82-90, 202101, DOI: 10.1177/1099800420941151, #1.789

20112003

Aki Hirayama, Keisuke Wakusawa, Toru Fujioka, Keiko Iwata, Noriyoshi Usui, Daisuke Kurita, Yosuke Kamen, Tomoyasu Wakuda, Shu Takagai, Takaharu Hirai, Takahiro Nara, Hiromu Ito, Yumiko Nagano, Shigeru Owada, Masatsugu Tsujii, Kenji J. Tsuchiya & Hideo Matsuzaki: Simultaneous evaluation of antioxidative serum profiles facilitates the diagnostic screening of autism spectrum disorder in under-6-year-old children, scientific reports, 10(1), 20602-20602, 20201126, DOI: 10.1038/s41598-020-77328-z, #3.998

20112004

Takaharu Hirai, Noriyoshi Usui, Keiko Iwata, Taishi Miyachi, Kenji J. Tsuchiya, Min-Jue Xie, Kazuhiko Nakamura, Masatsugu Tsujii, Toshiro Sugiyama, Hideo Matsuzaki: Increased plasma lipoprotein lipase activity in males with autism spectrum disorder., Research in autism spectrum disorder, 77, 101630-101630, 202009, DOI: 10.1016/j.rasd.2020.101630, #1.688

20112005

Noriyoshi Usui, Keiko Iwata, Taishi Miyachi, Shu Takagai, Keisuke Wakusawa, Takahiro Nara, Kenji J. Tsuchiya, Kaori Matsumoto, Daisuke Kurita, Yosuke Kamen, Tomoyasu Wakuda, Kiyokazu Takebayashi, Yasuhide Iwata, Toru Fujioka, Takaharu Hirai, Manabu Toyoshima, Tetsuo Ohnishi, Tomoko Toyota, Motoko Maekawa, Takeo Yoshikawa, Masato Maekawa, Kazuhiko Nakamura, Masatsugu Tsujii, Toshiro Sugiyama, Norio Mori, and Hideo Matsuzaki: VLDL-specific increases of fatty acids in autism spectrum disorder correlate with social interaction. , EBioMedicine, 58, 102917-102917, 202008, DOI: 10.1016/j.ebiom.2020.102917, #5.736

20112006

Wakabayashi M, Sasaki M, Nakayama Y, Aoki M, Yotsuya J: Evaluation of visceral fat using ultrasonography to predict obesity risk in young people, 形態・機能, 19(1), 1-8, 202008, DOI: 10.11172/keitaikinou.19.1

20112007

Nagase S, Ogai K, Urai T, Shibata K, Matsubara R, Mukai K, Matsue M, Mori Y, Aoki M, Arisandi D, Sugama J, Okamoto S: Distinct skin microbiome and skin physiological functions between bedridden older patients and healthy people: A single-center study in Japan, Frontiers in Medicine, 7, 101-101, 20200408, DOI: 10.3389/fmed.2020.00101, #3.9

20112008

Arisandi D, Ogai K, Urai T, Aoki M, Minematsu T, Okamoto S, Sanada H, Nakatani T, Sugama J: Development of recurrent pressure ulcers, risk factors in older patients: a prospective observational study, Journal of Wound Care, 29(Sup4), S14-S24, 20200401, DOI: 10.12968/jowc.2020.29.Sup4.S14, #1.798

b. 原著論文（審査無）**c. 原著論文（総説）****d. その他研究等実績（報告書を含む）****e. 国際会議論文****(3) 和文：著書等****a. 著書****b. 著書（分担執筆）****20112009**

監修：森岡広美、阿部幸恵、片山知美、古谷昭雄、分担執筆 川口めぐみ：自己での決定が困難な精神障害をもつ人のACP：人生を自分らしく生き抜くための意思決定～ACP・QOL・人生デザインシミュレーション～、株式会社 金芳堂、26-32, 202103, 978-4-7653-1860-0

c. 編集・編集・監修**(4) 和文：論文等****a. 原著論文（審査有）****20112010**

中本明世、北岡和代、片山美穂、川村みどり、森岡広美、川口めぐみ：メンタルヘルス不調による休職経験を経て働き続けるキャリア中期看護師の価値観変容プロセス、対人援助学研究, 11, 13-25, 202102

20112011

櫻井陽子、長谷川美香：妊娠初期妊婦のDomestic Violence被害とその関連要因、北陸公衆衛生学会誌 講演集, 47(学会特集), 31-34, 202011

20112012

四谷淳子、橋本美香、西山順子：ウレタンフォームマットレスのへたりによる褥瘡発生への影響、日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 24(3), 328-333, 20201110, DOI: 10.32201/jpnwocm.24.3_328

20112013

米澤洋美、秋原志穂：地方農村部シルバー人材センター会員の抱える現在と将来の心配事一性・年代別の比較一、第50回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション, (50), 191-194, 20200417

- b. 原著論文（審査済）**
20112014 北出順子：19世紀日本における「卒中」言説の変容，医学史研究，102，20-22，202102
- c. 総説**
- d. その他研究等実績（報告書を含む）**
20112015 長谷川美香：大学から公衆衛生の魅力を発信する，北陸と公衆衛生，67，15-16，20210331
- e. 国際会議論文**
- (B) **学会発表等**
(1) **国際学会**
a. 招待・特別講演等
b. シンポジスト・パネリスト等
c. 一般講演（口演）
20112016 AmirAsyraf, HiroakiTerasaki, KenjiFuruichi, ShunyaKato, TomohiroUmamura, TeruyukiFukuhara, MikaHasegawa, YukinoriKusaka: Improvement of Water Quality using Triangle Solar Still, 22nd IAHR-APD Congress 2020, 札幌, 20200915
- d. 一般講演（ポスター）**
20112017 Megumi Kawaguchi, Miho Katayama, Midori Kawamura, Akiyo Nakamoto, Hiromi Morioka: Parents' action of offspring with schizophrenia: The process of preparing for the future of sons or daughters after parents' demise, Transnational Nursing Society Conference 2020, web, 20200712
- e. 一般講演**
- f. その他**
- (2) **国内学会（全国レベル）**
a. 招待・特別講演等
b. シンポジスト・パネリスト等
20112018 四谷淳子：研究者全員が知っておきたい企業とのつながり方 互いの尊重と信頼、そして着実な成果！，第8回看護理工学会学術集会，202010
- 20112019** 四谷淳子：新しい様式～変化する体圧分散ケア～，第22回日本褥瘡学会学術集会，202009
- 20112020** 四谷淳子：専門的創傷管理・ケアにつなげるサービスシステムの構築・あり方 IADの予防・管理ケアにつなげるサービスシステム構築に向けた取り組み，第50回日本創傷治療学会学術集会，202011
- 20112021** 四谷淳子：療養環境に潜む危険から患者さんを守るためのポイント～研究者の視点から～，第22回日本褥瘡学会学術集会，20200912
- c. 一般講演（口演）**
20112022 櫻井陽子，長谷川美香：妊娠初期の妊婦におけるドメスティック・バイオレンス精神的健康の関連要因，第9回日本公衆衛生看護学会，東京，20210109，日本公衆衛生看護学会講演集，188，202012
- 20112023** Ogai K, Urai T, Aoki M, Sugama J: Exploring factors related to recurrence of pressure injuries: skin physiology and skin bacteria, 第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，オンライン，20200723
- 20112024** 大橋史弥、浦井珠恵、山中知子、青木未来、大桑麻由美、須釜淳子：長期療養施設における保存的治療で治癒した褥瘡の再発の実態，第22回日本褥瘡学会学術集会，オンライン，20200928
- 20112025** 岡本智子，宮松直美，村田伸，片寄亮，金丸恭子，炭本佑佳，東さおり，市川瑞希，森野勝太郎，宮澤伊都子，卯木智，前川聡，荻田美穂子：一大学病院糖尿病患者のアルブミン値と6年後のサルコペニアの可能性との関連：SHIP-FD研究，第63回日本糖尿病学会年次学術集会，20201005
- d. 一般講演（ポスター）**
20112026 夏梅るい子，長谷川美香，米澤洋美：NICUを退院した低出生体重児の母親の育児に対する自己効力感に関連する要因，第9回日本公衆衛生看護学会学術集会，web，20201225，日本公衆衛生看護学会学術講演集，192，202012
- 20112027** 夏梅るい子，長谷川美香，米澤洋美：NICUを退院した低出生体重児の母親の育児不安に関連する要因，第51回日本看護学会（ヘルスプロモーション），web，20200929，日本看護学会抄録集（ヘルスプロモーション），31，202012
- 20112028** 夏梅るい子，長谷川美香，米澤洋美：低出生体重児の母親の育児不安および育児に対する自己効力感に関連する要因，第23回日本地域看護学会学術集会，web，20200829，日本地域看護学会第23回学術集会講演集，75，202008
- 20112029** 夏梅るい子，新山真奈美：若年性認知症者の就労支援に関する若年性認知症支援コーディネーターの活動実態（第1報），第21回日本認知症ケア学会，web，20200530，日本認知症ケア学会誌，214，202004
- 20112030** 市川 瑞希，宮松 直美，片寄 亮，岡本 智子，炭本佑佳，東さおり，金丸 恭子，森野 勝太郎，宮澤 伊都子，卯木 智，前川 聡，荻田 美穂子：外来糖尿病患者におけるeGFRと減塩食品使用の有無との関連：SHIP-FD研究，第63回日本糖尿病学会年次学術集会，20201005
- 20112031** 岡本智子，宮松直美，片寄亮，森野勝太郎，宮澤伊都子，卯木智，前川聡，荻田美穂子：外来通院中の糖尿病患者の起立性低血圧と転倒との関連：SHIP-FD研究，第56回日本循環器病予防学会，20201201
- 20112032** 青木未来，四谷淳子：高齢者のドライスキンの有効な保湿剤の検討，第22回日本褥瘡学会学術集会，20200928
- 20112033** 加納博，中井國博，四谷淳子，青木未来：ウレタンフォームマットレスの経年使用によるへたりと交換時期の検証，第22回日本褥瘡学会学術集会，web，20200925
- 20112034** 青木未来，四谷淳子：排尿ケアチーム看護師のケアの困難感，第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，オンライン，20200723
- 20112035** 金丸恭子，片寄亮，村田伸，岡本智子，市川瑞希，森野勝太郎，宮澤伊都子，卯木智，前川聡，宮松直美，荻田美穂子：糖尿病患者における蛋白質摂取頻度と握力低下との関連 SHIP-FD研究，第63回日本糖尿病学会年次学術集会，20201005
- 20112036** 炭本佑佳，宮松直美，村田伸，片寄亮，岡本智子，市川瑞希，東さおり，森野勝太郎，卯木智，宮澤伊都子，前川聡，荻田美穂子：糖尿病患者における過去の運動習慣と各体組成（筋肉量・脂肪量）との関連：SHIP-FD研究，第63回日本糖尿病学会年次学術集会，20201005
- 20112037** 東さおり，宮松直美，岡本智子，片寄亮，炭本佑佳，市川 瑞希，森野 勝太郎，宮澤 伊都子，卯木 智，前川 聡，荻田 美穂子：糖尿病患者における喫煙習慣と起立性低血圧及び血圧低下を伴わない心拍数上昇との関連：SHIP-FD研究，第63回日本糖尿病学会年次学術集会，20201005
- 20112038** 片山美穂，北岡和代，中本明世，川口めぐみ，川村みどり，森岡広美，相上律子：抑うつ状態にある母親の育児プロセスに夫の行動や態度が与える影響，日本看護研究学会第46回学術集会，web，20200928，日本看護研究学会雑誌，43(03)，528，2020

- e. 一般講演
- f. その他
- (3) 国内学会（地方レベル）
- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）
- d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演
20112039

櫻井陽子, 長谷川美香: 妊娠初期妊婦のDomestic Violence被害とその関連要因, 第48回北陸公衆衛生学会, 20201117, 北陸公衆衛生学会講演集, 47, 31-34, 2020

- f. その他
- (4) その他の研究会・集会
- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）
- d. 一般講演（ポスター）
- e. 一般講演
- f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築	米澤 洋美	長谷川 美香, 北出 順子, 石垣 和子, 秋原 志穂	20200401-20240331	¥780,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	大学生のデートDV予防と援助要請行動促進を一体化した教育プログラムの開発	長谷川 美香	米澤 洋美, 川口 めぐみ, 北出 順子	20200401-20240331	¥1,560,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究 (B)	統合失調症者の家族レジリエンスを高めるための看護支援プログラムの開発	川口 めぐみ		20160401-20210331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	住民と国保保健婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究	北出 順子	長谷川 美香, 米澤 洋美	20180401-20220331	¥520,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	統合失調症をもつ人の家族レジリエンスを高めるための看護支援プログラムの効果検証	川口 めぐみ	平井 孝治, 長谷川 美香, 北岡 和代	20200401-20240331	¥1,560,000
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	糖尿病患者に特有のサルコペニア発症・進展および転倒の規定要因・5年追跡調査	岡本 智子		20200401-20220331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発	米澤 洋美	長谷川 美香, 北出 順子	20160401-20220331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	摂食障害の子どもをもつ親に対する簡易版心理教育の効果検証	平井 孝治		20190401-20230331	¥520,000
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	高齢者のドライスキン改善のための簡易的皮膚アセスメント法の開発	青木 未来		20190830-20220331	¥1,040,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	エコーを用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築	四谷 淳子	田邊 将之	20190401-20230331	¥130,000

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
共同研究	福井経編興業株式会社	生体情報収集機能を有するベッド用スマートシーツシステムの開発	四谷 淳子, 堀 照夫, 山下 芳範	20200914-20210331	¥220,000

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
受託研究	福井県	クラスター発生施設の特徴について〔高齢者のカラオケクラスター発生の特徴と新たな高齢者専用カラオケ様式の検討〕	四谷 淳子	20201013-20210331	¥642,000
受託研究	コロプラスト株式会社	高齢者の皮膚乾燥に対する保湿効果の比較検討	四谷 淳子	20190726-20200731	¥390,000

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の業績

学会の名称	役職	氏名
日本公衆衛生学会	一般会員	長谷川 美香
日本家族看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本看護医療学会	一般会員	長谷川 美香
日本在宅ケア学会	一般会員	長谷川 美香
日本看護研究学会	一般会員	長谷川 美香

American Public Health Association	一般会員	長谷川 美香
日本看護科学学会	一般会員	長谷川 美香
INTERNATIONAL COLLABORATION FOR COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH	一般会員	長谷川 美香
北陸公衆衛生学会	評議員	長谷川 美香
北陸公衆衛生学会	一般会員	長谷川 美香
日本公衆衛生看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本看護学会	評議員	四谷 淳子
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	評議員	四谷 淳子
日本超音波医学会	一般会員	四谷 淳子
看護理工学会	評議員	四谷 淳子
日本看護科学学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生看護学会	一般会員	米澤 洋美
日本地域看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本公衆衛生看護研究会	一般会員	米澤 洋美
日本結核・非結核性抗酸菌症学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生学会	一般会員	米澤 洋美
日本医学看護学教育学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
日本地域看護学会	一般会員	北出 順子
日本ケアマネジメント学会	一般会員	北出 順子
日本健康心理学学会	一般会員	北出 順子
日本高血圧学会	一般会員	北出 順子
医学史研究会	一般会員	北出 順子
日本保健医療社会学会	一般会員	北出 順子
日本循環器病予防学会	一般会員	北出 順子
北陸公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
日本看護研究学会	一般会員	川口 めぐみ
心理教育・家族教室ネットワーク	一般会員	川口 めぐみ
日本精神障害者リハビリテーション学会	一般会員	川口 めぐみ
日本精神科看護技術協会	一般会員	川口 めぐみ
日本精神保健看護学会	一般会員	川口 めぐみ
日本家族看護学会	一般会員	川口 めぐみ
北陸公衆衛生学会	一般会員	夏梅 るい子
日本地域看護学会	一般会員	夏梅 るい子
日本認知症ケア学会	一般会員	夏梅 るい子
日本公衆衛生看護学会	一般会員	夏梅 るい子
心理教育・家族教室ネットワーク	一般会員	平井 孝治
日本看護科学学会	一般会員	平井 孝治
日本脳科学学会	一般会員	平井 孝治
日本創傷治癒学会	一般会員	青木 未来
日本看護科学学会	一般会員	青木 未来
日本老年看護学会	一般会員	青木 未来
日本看護学会	一般会員	青木 未来
日本看護技術学会	一般会員	青木 未来
日本認知症ケア学会	一般会員	青木 未来
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	一般会員	青木 未来
看護理工学会	一般会員	青木 未来
日本看護学会	一般会員	青木 未来
看護実践学会	一般会員	青木 未来
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	一般会員	青木 未来
国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会	一般会員	青木 未来
日本サルコペニア・フレイル学会	一般会員	岡本 智子
日本疫学会	一般会員	岡本 智子
日本糖尿病学会	一般会員	岡本 智子
日本循環器病予防学会	一般会員	岡本 智子
看護理工学会	一般会員	岡本 智子
日本老年看護学会	一般会員	岡本 智子

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
シンポジウム等	第24回日本看護管理学会学術集会	北出 順子

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員の別	氏名	査読編数
北陸公衆衛生学会誌	査読	委員	長谷川 美香	1
北陸公衆衛生学会誌	編集	委員	長谷川 美香	5
日本地域看護学会誌	査読	委員	長谷川 美香	1
北陸公衆衛生学会	査読	委員	夏梅 るい子	1

(E) その他